

読書推進運動



公益社団法人
読書推進運動協議会

〒162-0828
東京都新宿区袋町6
日本出版クラブ会館内
TEL 03(3260)3071
FAX 03(5229)1560

発行人 宮本 久
編集人 片岡 伸子

定価 60円
会員の購読料は
会費の中に含まれる

No.599

- ★「読書週間」がはじまります！(2頁)
- ★「野間読書推進賞」受賞者 決定(3頁)



神保町でお待ちしています！

「読書週間」によせて

神保町ブックフェスティバル実行委員長
株式会社東京堂 会長

おほしのぶ
大橋信夫

「出版業界と地域の商業振興に寄与するため、そして、読者謝恩のために、ただいまから、第〇回神保町ブックフェスティバルを開催いたします」と、各方面への気遣いや配慮をこめた(?)セリフを口にして27年。ほかに適当な人がいないし、2日とも雨が降れば、ごめんなさいをいつて交代すればいいんだから……、と軽い気持ちで実行委員長を引き受けたのが運の尽き。秋のこの時期、東京では2日続きの雨日はほとんどないのです。

本のまち・神保町あげてのブックフェスティバル。27年間も実行委員長を務めていると、いろいろなことがあるものです。

あるとき、各出版社の人を対象としたブックフェスティバルの説明会場で聞きました。「みなさん、文化の日っていつかご存じですね」幾人かの手が上がり、11月3日と正しく答えが返ってきます。次に、「読書週間はいつからいつまででしょうか？」だれも手が上がらない。ここにいる人は営業の人ではなく、ふだんは編集をしている人たちで、「自分が作った本は自分が売ればもつと売れる、読書週間と関係ない問題だわ」と考えているのかと気づき、さ

はみたものの、どうやって次の話題に移ろうか、困ったことがありました。メインストリートに各出版社がワゴンを出店する即売会場を歩いていたら、ワゴンの女性が泣いているのを見たこともあります。「アア、シヨウガネーナア。また担当の人を困らせているお客さんがいる」と思っ近づいていくうちに、困っているのではなく、お客さんと意気投合して泣いていることが判明し、あわてて退散しました。これも、作り手である出版社と読者が直接ふれあえる、神保町ブックフェスティバルならではの光景でしょう。

古書店組合さんとの協力で行うチャリティーオークションも、ここ神保町ならではのイベント。貴重書も多く取り扱われるこのオークションに、皇太子徳仁親王殿下のご著書『テムズとともに』が2冊登場したことがありました。競りの担当者は、「この本は5倍の値が付いたのです。このご本はその後、古書業界の相場資料に、このときの落札価格で掲載され続けたと聞いています。

街のあちこちで本と人のエピソードが生まれる、神保町ブックフェスティバル。27回目の今年も晴天(たぶん)のもと、11月3日(金)・4日(土)・5日(日)に開催です。

本に恋する季節です！



2017・第71回 読書週間 10/27～11/9



本に恋して、ときめく、 そんな「読書週間」を！

10月27日(金)より、「読書週間」が始まります。今年の標語、ポスターは「恋」がテーマ。

ポスターは公共図書館へは各道府県読書推進運動協議会・各都道府県立図書館、学校図書館へは全国学校図書館協議会、書店へは日本出版取次協会の協力により各販売会社を通じて配布しております。部数追加をご希望の施設や団体は、遠慮なく当協議会事務局へお申し付けください。ヤングアダルト世代の心に響くのか、いつも以上に、中学校・高校からの追加希望をいただいているのが、今年の特徴です。

ホームページ「素材集」のポツプやしおり、ブックカバーのデータは、9月末より公開しております。こちらも「恋」をイメージして、ハートをあしらったデザインを用意しました。ハート型のおりは切り抜くのが面倒ですが、展示のワンポイントに使ったり、利用者やお客さん、子どもたちと一緒に切り抜いて「簡単工作」に取

り入れていただいても、おもしろいかもれません。

「ハートはちよつと恥ずかしい」という人のために、しおりとブックカバーはハート控えめのデザインもありますので、ご安心ください。今後のデータ作成の参考といえますので、活用事例など、ご意見、ご感想をぜひ、事務局までお寄せください。

本年も、「読書週間」雑誌広告を用意し、日本雑誌協会の協力のもとで各雑誌出版社へ掲載を呼びかけました。10月1日現在で、12社38誌の協力をいただいております。



真ん中のカバーは赤のチェック目立ちます！

す。おもに10月中旬～11月初旬発行の雑誌に掲載されます。

日本書店商業組合連合会(日書連)では、本年も読書週間期間中に「読書週間 書店くじ」を全国多数の書店で実施します。くじは書店で500円以上の書籍・雑誌を購入した読者に1枚進呈。本年の賞品は、1等賞Ⅱ図書カード1万円分(400本)。以下、2等賞Ⅱ1000円分(600本)、3等賞Ⅱ500円分(8000本)、4等賞Ⅱ100円分(20万本)は、図書カードまたは図書購入時に直接充当できるとしています。当選発表は12月5日(火)。日書連ホームページ(<http://www.shoten.co.jp>)および実施書店の店頭掲示ポスターで確認できます。

日本出版販売労働組合では、クリアファイルに読書週間啓発チラシとしおりをはさみ、全国の駅頭で配布する読書推進キャンペーンを今年も実施します。

東京神保町では、「第58回 東京名物神田古本まつり(10月27日)



「読書週間書店くじ」ポスター

11月5日)と「第27回 神保町ブックフェスティバル(11月3日～5日)」が開かれます。今年のブックフェスティバルは、3日間と例年より1日多く、各出版社が謝意価格本や掘り出しものを出品するワゴンセール「本の得々市」や作家の講演会などと、神保町で人気のレストラン・カフェの屋台が楽しめる。第51回 造本装幀コンクール」公開展示、「本の学校出版産業シンポジウム2017 in 東京」神保町で本の「いま」を語る「う」など、協賛イベントも例年以上に予定されています。

そのほか、公共図書館、図書室でも多くの行事が予定されています。「読書週間」終了後に各道府県読書推進運動協議会より報告をいただき、来年4月に本紙別冊付録「行事報告一覽」を発行します。

2017年度・第47回

『野間読書推進賞』決定

8月29日(火)、東京・新宿区の日本出版クラブ会館で行われた『第47回野間読書推進賞選考委員会』において、2017年度の受賞者が左記のとおり決定しました。

《団体の部》

- ・函館朗読奉仕会(北海道函館市)
- ・とりで・子どもの本の会(茨城県取手市)
- ・彦根おはなしを語る会(滋賀県彦根市)

《個人の部》

- ・川端 英子さん(宮城県仙台市)
- ・浅川 玲子さん(山梨県甲府市)

《奨励賞》

- ・土庄町立中央図書館友の会(香川県小豆郡土庄町)

今年度の野間読書推進賞は、都道府県読書推進運動協議会や教育委員会などに受賞候補者の推薦をお願いしました。

いただいた推薦数は団体の部23(前年22団体)、個人の部6(前年5人)。8月21日(月)に野間読書推進事業委員による第一次選考会を行い、選考委員会へ向けて、13団体、4個人を選出しました。

選考委員会は8月29日(火)に開催され、前記の受賞が決定しました。

函館朗読奉仕会は、1975年

とりで・子どもの本の会は、

1979年に発足。子どもたちにもっと本を読んでもらいたい、本を好きになつてもらいたいと、調査・研究・勉強を積み重ね、その成果を活かした事業の企画・運営に取り組んでいます。学校訪問おはなし会は、市内全小学校3年生を対象に授業時間の1コマが割り当てられています。7時間にわたつて読み聞かせや紙芝居、手遊びなどを切れ目なく続ける「おはなしマラソン」は、会場内の会員の推薦絵本コーナーも家庭での読み聞かせの参考になると好評です。

彦根おはなしを語る会は有志による活動を経て、1991年に設立されました。生の声でおはなしを聞く心地よさと楽しさ、昔話にこめられたメッセージや願いを届けることを目的とし、おはなし会を本もマイクも使わない素話で行うことを特徴としています。語りや絵本の勉強会を継続し、図書館・学校・介護施設など市内各所で活躍しています。

川端英子さんは1970年代に近隣の母親たちと協力して開いた家庭文庫「のぞみ文庫」をはじめとして、児童館の「おでんとさん文庫」、教会の「こひつし文庫」を主宰。川端さんの文庫からは多

くの文庫が生まれています。「仙台手をつなぐ文庫の会」「みやぎ親子読書をすすめる会」「仙台にもっと図書館をつくる会」「子ども読書コミュニケーションプロジェクトみやぎ」の発足にも尽力しました。

成する「NPO法人山梨子ども図書館」の設立にも関わりました。奨励賞の土庄町立中央図書館友の会は、新図書館建設を目的とした集まりを母体に、1999年に結成。図書館事業に協力し、その発展に寄与しています。活動拠点は図書館ですが、町内ほとんどの保育所・幼稚園・小学校、高齢者施設と、年々、読み聞かせの場所を増やしています。作家の講演会の開催や、図書館への大型絵本などの寄贈も行ってきました。

浅川玲子さんは、山梨県立図書館在職中の1971年、自宅に「やまぼと文庫」を開設。浅川さんに共感する人は多く、「山梨子どもの本研究会」「甲府文庫連絡会」、読み聞かせグループ「ききみみずきんおはなしの会」も結成されました。県立図書館退職後も町村図書館で後進の指導を務め、県内ボランティアの連携交流が目的の「図書館ボランティアやまなし」、子どもの読書の専門的な人材を育

選考委員会では、ここ数年推薦が増えている、図書館運営を受託しているグループについても議論が費やされました。推薦されてきたグループの実績はすべて申し分なく、受託の経緯にも納得がいくものの、こうした活動が受賞したという結果だけがひとり歩きし、安易に指定管理制度を導入する自治体が増えるのではないかと懸念が委員からあり、授賞は見送りとなりました。



贈呈式は11月7日(火)、午前11時より、東京都新宿区の日本出版クラブ会館にて開催します。読書推進運動協議会、日本出版クラブとともに、来年は事務所を移転するため、神楽坂での開催は今回が最後となります。

「上野の森親子フェスタ2017」報告会

次回より「親子ブックフェスタ」に
改称、出展料の値上げを提案

9月13日(水)、東京都新宿区の日
本出版会館で、5月3日～5日の
3日間、東京都台東区の上野恩賜
公園中央噴水池広場を中心に行
われた「上野の森親子フェスタ
2017」の報告会が出展者と後
援者に向け開催された。

主催の3団体、子どもの読書推
進会議、日本児童図書出版協会、
出版文化産業振興財団で構成する
運営委員会の委員による、事業報
告、収支報告、来年春の「上野の
森親子ブックフェスタ2018」の
開催概要、開催方針がそれぞれ報
告された。



「上野の森親子フェスタ2017」
会場にて

事業報告では、屋外来場者約
3万人、書籍などの謝恩価格販売
売上3700万円などが報告され
た。つづいて収支報告。収入の内
訳が73者の出展料593万円、売上
収益167万円、協賛金・協力金・主
催者拠出金の40万円で1200万
円。支出は1110万円。2年間
の収支差額246万円は荒天対策金と
して別途積立てると説明された。

また、協賛金・協力金・拠出金に
頼ったフェスタの財政設計の問題
なども報告された。

ひきつづき、2018年5月3
日～5日に開催される今回の開催
概要と開催方針として、今回効果
をあげたレジ増設と集中レジ方式
を進化させること、会場の昼夜警
備の継続などが報告され、名称
を「上野の森親子ブックフェスタ」
に改称すること、出展料の1万円
値上げなどが提案された。

次回開催にむけ、支出の精査や
講演会のあり方などについて質疑
応答があり、2018年1月中旬
に出展者募集を開始すると告知し
て終了した。

読書推進運動協議会 全国図書館大会で初展示

「優良読書グループ表彰」
「野間読書推進賞」をあらためて紹介

公益社団法人 読書推進運動協
議会は、10月12日(水)・13日(金)に東
京都渋谷区の国立オリンピック記
念青少年総合センターで開催され
る「第103回 全国図書館大会 東京
大会(主催：日本図書館協会)」で、
展示会を行います。

テーマは「読書推進運動協議会
の読書グループ表彰事業」。読書
グループの結成・育成を目指して
行ってきた、「全国優良読書グルー
プ表彰」「野間読書推進賞」のふ
たつの表彰事業の紹介が中心とな
ります。



今回はパネルデータを縮小してご紹介
(写真は昨年の千代田図書館での様子)

「読書週間」70回を記念して、東
京都千代田区立千代田図書館と共
催して展示「仲間と読んだ話し
たあの一冊」昭和から今につな
がる読書のコミュニケーション」を行
い、それら表彰・受賞者の活動と、
読書グループの魅力と可能性を紹
介しました。その展示パネル(縮
小した複製)をあらためて展示し
ます。

また、昨年より当協議会機関紙
『読書推進運動』に掲載してきた
『野間読書推進賞受賞者の活動報
告』も、カラー写真を入れてご紹介
する予定です。



「野間読書推進賞受賞者の活動報告」は
本紙では掲載できなかった写真も紹介



これまでのポスターをならべたシートも
展示します！

あわせて、来年実施予定の「全
国読書グループ調査」の歴史と内
容についてもお知らせいたしま
す。5年に一度、全国の公共図書
館・類縁機関のみなさまのご協力
をいただいで行う調査です。展示
会場では、調査へのご意見やご質
問も承ります。

そのほか、これまでの「読書週
間」ポスターと、「読書週間」の
豆知識を紹介し、当協議会ホーム
ページで配信している「読書週間」
のしおり、ブックカバー、ポップ
なども展示します。

■第26回ブラティスラヴァ世界絵本原画展 受賞者決定

国際的な絵本原画コンクールで日本人作家2名が受賞!

日本国際児童図書評議会(JBY)は、第26回ブラティスラヴァ世界絵本原画展で、荒井真紀さんが「金のりんご賞」を、ミロコマチコさんが「金牌」を受賞したと発表した。

ブラティスラヴァ世界絵本原画展は隔年で開催される絵本原画の国際コンクールで、1967年にはじまった。第1回には瀬川康男さんが『ふしぎなたけのこ』(福音館書店)でグランプリを受賞している。ひとつの国から最大15人の画家しかエントリーできないため、絵本の原画でもっとも権威



「金のりんご賞」を受賞した荒井真紀さんの『たんぽぽ』

のあるコンクールのひとつとされており、日本では国際児童図書評議会(IBBY)の日本支部であるJBYが国内選考会を実施して、出版画家と作品を選び、国際選考会では各国の専門家で構成される国際審査団が、グランプリ1名、金のりんご賞5名、金牌5名を選出する。ひとつの国から2名が受賞するのは、快挙といえる。金のりんご賞の荒井真紀さんは『たんぽぽ』(金の星社)での受賞。柔らかな色彩の細密画で、たんぽぽの芽吹きから開花、綿毛で種が飛び立つまでを紹介する。荒井さんははじめてのエントリーでの受賞となった。

金牌のミロコマチコさんの受賞作は、迫力ある動物と豊かな色彩が心に残る『けもののおいがしてきたぞ』(山崎書店)。ミロコさんは2015年にも『オレときいろ』(WAVE出版)で金のりんご賞を受賞しており、2回連続の受賞となる。

今回の受賞作は来年夏から、日本国内で巡回展が行われる予定。

優良読書グループの歩み (10)

2016年度の「読書週間」に際して都道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。(順不同)

上八田一坪図書館「くれよんの会」

代表者 市川美江子

山梨県南アルプス市
(推薦)
山梨県公共図書館協議会
読書推進運動部会

グループ成立の歴史

1979年10月、山梨県立図書館事業の一環として、一坪図書館を地域の公民館に立ちあげた。

当時は県立図書館から本を借り入れ、貸出業務を中心に地域の母親ボランティアが活動を行った。

組織と運営

現在会員13名。発足当時から活動歴37年になる70代から、30代まで幅広いメンバーで構成され、その活動は地域に根ざして脈々と受け継がれている。

また、時代とともに、蔵書も多くの情報も豊富な公立図書館を利用する人が増えて、一坪図書館の利用者が減ったことから、地域の文化活動や育成会、学校などの事業

グループで心がけていること
おたがいに補いあい、無理のない活動を心がけている。また、練習後にはお茶会や、年に一度、食事会を行い、会員同士の交流をはかり楽しい活動にしている。

日ごろより、和気あいあいとした雰囲気の中で活動を行い、ときには子育てや親の介護の話など気軽に話せる仲間である。

これからの希望

今後も人形劇や読み聞かせをおして本の楽しさを伝え、子どもたちの成長を見守っていききたい。また、子育て中の親や孫育て中の祖父母世代にも、子どもの読書の大切さを伝えていきたいと願っている。



手作りの人形劇で地域の行事に参加

■〈大震災〉 出版対策本部の継続支援活動

大切なこと それは「忘れない」こと。

〈大震災〉 出版対策本部 運営委員長 原本 茂

9月1日(金)・2日(土)の2日間、福島第一原発・第二原発の視察に行ってきました。

日本出版クラブが中心になり、震災対策本部が実施しているバススタディツアーでの視察です。このツアーは「訪ねることが支援」をキーワードに毎年実施していて、今回で第7回目となりました。被災された書店や行政機関、学校、図書館、製紙会社など、東北各地をこれまで訪ねてきました。

これまでバススタディツアーでは13年5月に第二原発、14年9月に第一原発の視察をしたことがあり、今回がそれぞれ二度目となります。参加者の中には私も含めて二度目の視察という方もいました。前回と比較すれば、原発敷地内の瓦礫はたしかに片づけられ、整然としたように感じました。しかし、廃炉への道程ははるか彼方のように感じたのが正直なところ

です。第一原発では、東京電力から汚染水の処理についての説明もあり



福島第二原発 4号機原子炉格納容器内原子炉圧力容器の下部にて

ました。個人的に印象深かった点は、62種の放射性物質のうちトリウムだけは除去できないため、処理水として保管しているということでした。その保管がいつまで続き、どう処理するかは現時点で不透明なことに、あらためてショックを受けました。

さて、震災対策本部の活動も7年目に入りました。これまでさまざまなかたちで支援を重ねてきましたが、震災対策本部が発足以来ずっと続けている支援活動を3つ紹介します。

まず、未就学児・高校生を対象にした震災遺児たちへのクリスマスプレゼントです。震災後2年目から毎年継続して、小学生以下には3000円、中学生には5000円の図書カードをプレゼントとして贈っています。けつして簡単な作業ではなく、どこに何人の遺児がいるかを確認する必要があり、手間と時間がかかります。県によって管轄も違い、担当者も人事異動で変更になります。先方の引継ぎが悪い場合、支援活動の概要を最初の一步から説明せざるを得ない場合もあります。さらに当然のことですが、対象遺児も毎年減り、居住場所も変わったりします。対策本部のメンバーで作業を分担し、この任に当たっています。毎年子どもたちから「忘れずにいてくれてありがとう!」というお礼状が届くことが、なにより喜びです。

2つめは冒頭に紹介したバススタディツアーです。現地に行つて現地の人と話をする。とても単純



コミックトレインは多くのマンガファン・鉄道ファンからも注目され、観光の一助にも

なことですが、じつはとても大切なことなのです。「震災のことをいまでも忘れずに訪ねて来てくれた。それがうれしい」と、被災地のみなさんは口をそろえていつてくれます。東京にいると震災のこと、被災された人たちのことを、ついつい忘れがちになります。「忘れない」ためにも来年も、このツアーを継続していくことが肝要かと考えます。

3つめは図書の寄贈です。震災対策本部では震災発生直後から避難所などへ図書の寄贈を実施しました。その後も必要に応じて学校図書館、公立図書館への寄贈を毎年のように続けてきました。しかし、被災地の書店への支援も考慮し、2年目以降は図書カードでの支援にほぼ切り替えました。図書

館が必要な図書を地元の書店を通して購入できるからです。今年も日本図書館協会、学校図書館協議会の協力を得て被災地の小学校、中高の図書館に図書カードの支援を行う予定です。

そのほかにも、夏休みに被災3県の小学生から高校生まで全員に図書カードプレゼントを3年間実施。3県の新聞社、書店商業組合、教育委員会などと協力して「私のおすすめ本メッセージカードコンテスト」も、図書館振興財団とともに3年間実施しました。これは自分が読んで感動した本をポップにして周囲の人に伝える、読書推進運動にもつながる企画でした。

また、昨年一度だけですが、コミック出版社の会14社(当時)の協力も得て、人気キャラクターでラッピングした「コミックトレイン」を、多くの子どもたちの笑顔を乗せて、東北の夏空の下に走らせた。そのほかにも数多くの支援をしてきましたが、紙幅のこともあり割愛いたします。

最後になりましたが、これらの支援活動を可能としたのは、大震災出版復興基金のおかげです。寄附を寄せていただいた多くの方々に深謝申しあげます。

「忘れない」ということを心に。

「絵本ワールドinわかやま」が生まれるまで

絵本が日常になる一日

有田川町(和歌山県 教育委員会 杉本 和子)

絵本の町の礎

一日で3000人以上が集まる有田川の絵本ワールド。お正月もお盆も交通渋滞が起らないのに、この日だけは道路が混雑します。そんな有田川の絵本ワールドをご紹介します。忘れてはいかないイベント「絵本deわっしょい」は、今年で12年目を迎えます。



宮西達也さんをはじめ、人気の絵本作家さんが有田川を訪れる

した。読み聞かせだけでなくワークショップや読み聞かせ講習会など、どれをとっても参加者が熱心に見て、こんなイベントを有田川で開催したいと思えました。そんなとき、有田川の隣町で絵本作家の宮西達也さんのイベントがあるのを聞きつけ参加しました。紀伊山地の山深いところにある本屋さんでのイベントです。正直、人が集まるのだろうかと思いましたが、会場は満員でした。子どもを差しおき、大人である自分自身が本気で楽しんでいたので。「一流のスポーツ選手に会いたいように、一流の絵本作家さんに会えたら……」そんな思いがわき、講演会のあと、宮西さんのアテンドだろろう出版社の方に「どうすれば絵本作家さんを町へ呼べるのですか?」と尋ねていたほどです。

このふたつがきっかけとなって「絵本deわっしょい」がスタートしました。絵本を多角的にとらえ、絵本に出てくるお菓子作りに小物

作り、読み聞かせの講習会や絵本作家さんの絵本ライブも、といった絵本で遊ぶ一日を、図書館サービスの一環として年に一度開催していました。このイベントが礎となつて、「図書館サービスとしての絵本」が「町づくりとしての絵本」に移っていきます。

絵本の町有田川を目指して

現在、人口約2万7000人の有田川町は、2060年に人口2万人以上をキープするといふ「有田川町人口ビジョン」に基づき「有田川町まち・ひと・しごと総合戦略」を策定し、その施策のひとつに「絵本による子ども子育て支援」を掲げています。地方創生を目指し「有田川町絵本まちづくりブランドデザイン(2015年度)を策定し、「絵本」という素材を活かした町づくり、町の存続を絵本の可能性にかけた町づくりが進められています。

2011年には「絵本のまち」をアピールするために町の玄関

口(JR藤並駅2F)に絵本原画を展示するちいさな駅美術館Ponte del songo(イタリア語で夢の架け橋)を開館し、同時に有田川町絵本コンクールもはじめました。今年で7年目を迎えるのですが、どうすれば「絵本のまち有田川」が町内外に浸透するのか一番の悩みの種でした。これまでご協力いただいた絵本作家さんや出版関係者の方々にアドバイスをいただきながら暗中模索の日々が続きます。これ以上は行政だけの力では無理、限界がある。町づくりのためには民間の力が必要。そうして3年前に発足されたのが「一般社団法人 絵本町づくり協会」でした。

有田川の絵本ワールド

民間の力が加わったことで、絵本コンクールの授賞式にあわせて行う「絵本deわっしょい」に昨年からはじめて絵本ワールドを同時開催できました。同会場の町内・県内の行列ができるおしゃれな店を集めた絵本マルシェも、それぞれのお店が絵本を飾ったり、絵本にちなんだものを出したりする工夫ぶり。集客に大きな力を発揮したのも民間ならではでしょうか。いまでは絵本マルシェに出店したいと



書店がない有田川町では、新しい絵本を手に入る貴重な日でもあります

いう問いあわせがあるほどです。今年の「絵本deわっしょい」「絵本ワールド」「絵本マルシェ」の開催は11月11日(土)・12日(日)。今年もたくさんの絵本作家さんが来てくれます。浦中こういちさんの保育士セミナー、Iupera Iuperaさんのおはなし会、平田昌広さん・景さんの夫婦ライブ、宮西達也さんのトークショー、宮本えつよしさん・山本孝さんのワークショップ。なにより加藤休みさんを含む全作家さんが旧有田鉄道の廃線を利用したポツポツみち(歩行者と自転車専用道路)の駅舎に行うライブイベントがとても楽しみです。今年も盛りだくさんな内容でみなさんのお越しをお待ちしています。有田川でしか味わえない絵本の日を過ごしませんか。



2018年(平成30年)



第60回「こどもの読書週間」

第72回「読書週間」

2018年4月23日～5月12日

2018年10月27日～11月9日

標語募集!

2018年(平成30年)第60回「こどもの読書週間」と第72回「読書週間」の標語を募集します。

この標語は12月中旬に公益社団法人 読書推進運動協議会の事業委員会にて選定し、それぞれのポスターに刷り込んで全国の新聞社・雑誌出版社へ、また都道府県読書推進運動協議会を通じて公共図書館などへ、そして、全国の学校や書店などに送られ掲出されます。

60回目をむかえる「こどもの読書週間」のポスターのイラストは、荒井良二さんです。

秋の「読書週間」は、ポスターイラストとの親和性を高めるため、この時期に標語を募集します(ポスターイラストの募集は4月～6月を予定)。

●《応募要項》

①標語案Ⅱどちらにも、読書の豊かさ、奥深さ、楽しさ、有用性などを新鮮な感覚で表現した未発表のもの。「こどもの読書週間」標語は、子どもの読書を念頭に、応募願います。

②応募用紙Ⅱ官製はがき、A4判ファックス用紙、メール

③応募作品数Ⅱ「こどもの読書週間」「読書週間」とともに、ひとり3作まで応募可。返却はい

たしません。学校など団体での応募は、下選考をお願いします。

(入選作の著作権は公益社団法人 読書推進運動協議会に帰属)

④締切Ⅱ2017年11月15日(休)

必着

⑤賞Ⅱ「こどもの読書週間」「読書週間」それぞれに、賞を用意します。▼入選(1作)図書カード1万円分、標語として採用▼次点(2作)図書カード5千円分▼佳作(20作前後)図書カード2千円分

⑥発表Ⅱ入選・次点まで「読書推進運動」1月発行号紙上、佳作は賞券送付で

⑦送り先Ⅱ〒162-0828 東京都新宿区袋町6 (日本出版クラブ会館内) 公益社団法人 読書推進運動協議会

「こどもの読書週間」標語関係 または「読書週間」標語関係(どちららへの応募か明示してください)

・EメールアドレスⅡhyogo@dokusyo.or.jp

・EメールⅡ5229-1560

・EメールⅡ5229-1560

・EメールⅡ5229-1560

・EメールⅡ5229-1560

・EメールⅡ5229-1560

・EメールⅡ5229-1560

事務局報告(9月)

☆1日、2日Ⅱ「大震災」出版対策本部「バスターアワード」に参加

☆6日Ⅱ「第47回野間読書推進賞」受賞者推薦人を受賞連絡

☆7日Ⅱ「日本図書賞」表彰、協賛依頼

☆8日Ⅱ「全国図書館大会」会場下見に参加

☆11日Ⅱ「機関紙」読書推進運動(598号)データ入稿

☆12日Ⅱ「機関紙」読書推進運動(598号)校了

☆13日Ⅱ「上野の森親子フェスタ2017」報告会開催

☆14日Ⅱ「子ども読書の日ポスター」について打ちあわせ

☆15日Ⅱ「若い人に贈る読書のすすめ」書目選定事業委員会案内を事業委員会に送付

☆15日Ⅱ「機関紙」読書推進運動(598号)発行

☆19日Ⅱ「講談社社長室」に出席

☆19日Ⅱ「本が好き」運動について出版広報センターと打ちあわせ

☆20日Ⅱ「大震災」出版対策本部「運営委員会」に出席

☆20日Ⅱ「ガンバ! 福島! 私のおすすめ本・メッセージカードコンテスト 第1次選考会」に出席

☆22日Ⅱ「平成29年度第3回常務理事会」案内を送付

☆25日Ⅱ「絵本文化推進協会 運営委員会」に出席

☆25日Ⅱ「2018年度の絵本ワールド事業について日本児童図書出版協会と打ちあわせ

編集部 & 事務局のひとこと

●文化祭の季節です。東京の伊豆大島には、図書委員会が文化祭で古本市を開き、その収益で町の移動図書館や小学校図書室に本を寄贈する高校があります。その高校と縁があること、わが家の蔵書が本棚の収容力を大きく上回ったため、今年古本市に本を送ることにしました。

●送った本の大部分は、「手放すのはちょっと惜しいな」と思う本。現時点で読み返した回数が2回までを基準としました。私は1回読んでいただけでも、夫は何回も読んでいる本もあるの、聞き取り調査?をしながらの荷作りです。ただし、子どもは、「ヤングアダルトの本については、惜しいな」と思うものもある程度入れました。

●「しまった、タイミング外した」だよ。なんでこの本をもっと昔、小学校の時に読んでおかなかったんだろうって、ものすごく後悔した。せめて中学生でもいい。十代の入口で読んでおくべきだった。そうすればきつって、この本は絶対に大事な本になつたはずだったんだ。

●「ナルニア国ものがたり(岩波書店)」をはじめ読んでみた男の子のセリフです。古本市で「大事な一冊」に出会えた子がいたらいいな、と思います。なお、読み返すすぎて本がぼろぼろになっていることもあり、今回私は『夜のピクニック』『ナルニア』を手放せませんでした……。(伸)